

第7回 安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会

日時：令和7年7月23日（水）

午後5時30分から午後7時

会場：池田町交流センターかえで

次 第

1 開 会

2 県教育委員会あいさつ

3 会議事項

（1） 第6回安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会まとめ

（2） 講演「総合産業高校での学科連携をとおした職業人育成」

講師：福井県立坂井高等学校 校長 清水 一広 先生

（3） 質疑応答及び意見交換

4 その他

次回の予定

【日時】 令和7年9月頃（予定）

【場所】 （調整中）

【内容】 学びのイメージ策定に向けた意見交換

5 閉 会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

（目的）

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」（以下、「懇話会」という。）を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条例により設置された附属機関ではないものとする。

（会議事項）

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- （1）学校像、教育方針等に関すること
- （2）校地・施設・設備等に関すること
- （3）管理運営等に関すること
- （4）教育内容等に関すること
- （5）その他、県教育委員会が必要と認める事項に関すること

（構成員）

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者（校長、教職員等）、地域の代表（自治体関係者、産業界の代表等）、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

（開催期間）

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会構成員名簿

令和7年4月以降

（敬称略）

	区分	氏名（座長◎）	所属等	役職等
1	自治体	中山 栄樹	安曇野市	副市長
2		宮澤 達	池田町	副町長
3		橋渡 勝也	安曇野市教育委員会	教育長
4		山崎 晃	池田町教育委員会	教育長
5	産業界	高橋 秀生	安曇野市商工会	会長
6		栗原 裕	J A あづみ	総務開発事業部長
7		宮崎 鉄雄	池田町商工会	事務局長
8		傳刀 勇	J A 大北	総合企画管理課長
9	学識経験者	◎村松 浩幸	信州大学教育学部	教授
10	地域	斉藤 岳雄	有限会社 斉藤農園	専務取締役
11		石井 克則	黒田精工株式会社	専務取締役・工場長
12		深澤 大輔	株式会社 大王（大王わさび農場）	代表取締役
13		斎藤 政一郎	松本地域振興局	局長
14		柳原 健	北アルプス地域振興局	局長
15	同窓会	笠井 明	南安曇農業高等学校同窓会	同窓会長
16		山崎 完好	穂高商業高等学校同窓会	同窓会長
17		宮澤 敏文	池田工業高等学校同窓会	同窓会長
18	P T A	北川 昭一	南安曇農業高等学校 P T A	P T A 会長
19		鷲澤 恒夫	穂高商業高等学校 P T A	P T A 会長
20		小山 恵梨香	池田工業高等学校 P T A	P T A 会長
21		小松 公平	安曇野市 P T A 連合会	顧問
22		小澤 誠一	大北 P T A 連合会	会長
23	小中学校等関係者	臼井 慎詞	安曇野市校長会（豊科北小校長）	会長
24		工藤 美恵	北安曇校長会（池田小学校長）	会長
25		山岡 勝則	安曇養護学校	校長
26	再編対象校	蜜澤 健人	南安曇農業高等学校	生徒会長
27		大吉原 麗	南安曇農業高等学校	生徒会副会長
28		井出 敦	南安曇農業高等学校	校長
29		今溝 秀雄	南安曇農業高等学校	教職員
30		山口 日菜子	穂高商業高等学校	生徒会長
31		小林 優夏	穂高商業高等学校	生徒会副会長
32		三宅 浩一	穂高商業高等学校	校長
33		川上 忠志	穂高商業高等学校	教職員
34		深澤 穂積	池田工業高等学校	生徒会長
35		竹内 海翔	池田工業高等学校	生徒会副会長
36		藤田 洋子	池田工業高等学校	校長
37		西山 浩介	池田工業高等学校	教職員

【事務局】

学校名	氏 名（役職等）
南安曇農業高等学校	（教頭） 本山 義治
	（教職員） 川上 直子、中田 貴子、水谷 通章、矢野 良
穂高商業高等学校	（教頭） 橋本 徹
	（教職員） 浅見 大輔、有賀 詩織、川上 忠志、酒井 慎也
池田工業高等学校	（教頭） 山口 秀樹
	（教職員） 佐藤 仁、西山 浩介、松井 一陽、矢原 和義

	氏名	所属等	役職等
県教育委員会	柳沢 勝美	高校教育課 高校再編推進室	主幹指導主事
	高橋 正俊	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	原 周一郎	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	貝野 宗司	高校教育課 高校再編推進室	主事
	宮沢 悠太	学びの改革支援課 高校教育指導係	指導主事

第6回 安曇野総合技術新校(仮称)再編実施計画懇話会まとめ（案）

日 時	令和7年5月19日（月）午後5時30分から午後7時10分		
場 所	穂高公民館 講堂		
出 席 （敬称略）	宮澤 達、橋渡 勝也、山崎 晃、金森 俊文(代理)、栗原 裕、宮崎 鉄雄、傳刀 勇、村松 浩幸、斉藤 岳雄、石井 克則、深澤 大輔、草間 英樹(代理)、山口 陽輔(代理)、笠井 明、山崎 完好、宮澤 敏文、北川 昭一、小岩 未佳(代理)、小澤 誠一、臼井 慎詞、工藤 美恵、山岡 勝則、井出 敦、今溝 秀雄、山口日菜子、小林 優夏、三宅 浩一、川上 忠志、深澤 穂積、竹内 海翔、藤田 洋子、西山 浩介（以上32名）		
欠 席 （敬称略）	中山 栄樹、高橋 秀生、斎藤政一郎、柳原 健、鷲澤 恒夫、小山 恵梨香、小松 公平、蜜澤 健人、大吉原 麗（以上9名）	傍聴	15名、報道3社、オンライン3名
事務局	南安曇農業高校	本山教頭、中田教諭、矢野教諭、山崎教諭	
	穂高商業高校	橋本教頭、浅見教諭、有賀教諭、酒井教諭	
	池田工業高校	山口教頭、佐藤教諭、松井教諭、矢原教諭	
	県教育委員会	百瀬参事、佐野高校再編推進室長、柳沢主幹指導主事、高橋主任指導主事、原（周）主任指導主事、宮沢指導主事	
会議事項	（1）第5回安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会まとめ （2）これまでの懇話会の開催状況と今後の予定 （3）新校の学びのイメージに係る意見交換		
当日資料	・次第、開催要綱、構成員名簿、第5回懇話会まとめ、学びのイメージ検討手順、懇話会のスケジュール、これまでに出席された意見のまとめ、学びのキーワード抽出、これまでの懇話会の意見集約、グループワークについて ・会場配席図		

主な内容（・意見等 → 座長 ⇒事務局）

- 座長選出
前座長退任に伴い、座長に信州大学 村松 浩幸 教授を選出。
- 会議事項
- (1) 第5回安曇野総合技術新校(仮称)再編実施計画懇話会まとめ
・第5回懇話会まとめについて事務局から説明。【質問、意見なし】
- (2) これまでの懇話会の開催状況と今後の予定
・昨年度は全国の先進事例の講演や3校の学びの紹介、公開授業の視察を行い、構成員の共通理解を深め、第4回から「育てたい生徒像」「目指す学校像」について様々な観点からご意見をいただいていた。
・今年度は、「育てたい生徒像」「目指す学校像」の抽象的な部分と、「新しい学校の中身」などの具体的な部分の意見交換をしながら、学びのイメージの策定を進めたい。
・具体的な新しい学校の中身を検討するため、全国の先進事例を紹介しながら進めていきたい。第7回では、福井県立坂井高等学校の校長先生に講演いただく。
・平成26年に開校した福井県立坂井高等学校は農業、工業、商業、家庭科の4科を統合再編した高校。先進事例として参考になる部分が多いと考えている。
・来年度以降「安曇野総合技術新校(仮称)再編実施基本計画」を策定する予定。
- (3) 新校の学びのイメージに係る意見交換
- ①「10年後の産業のあり方を見据えた、これからの学校像や生徒像」について
＜安曇野市商工会 金森＞
・「目指す学校像」として地域に関連の深い工業や観光などの産業へ、将来、生徒たちが従事する可能性が高まることを期待したい。
・今後、就職希望の生徒の減少が予想される。就職希望の生徒に対して、より専門性の高い内容を学ぶことができるように情報科や工業技術、観光など様々な分野に特化した県外からも需要がある専攻科を設置し、さらに専門的な学びを求める生徒の受け皿となり、地元に残ってもらえる人材の育成に期待したい。
・「育てたい生徒像」について、積極性や、高いコミュニケーション力のある生徒を望む声は全産業に共通している。
・魅力ある学校をつくる中で地域の中学校との連携も大事にしていきたい。
- ②これまでの懇話会の意見集約
⇒今後の学びのイメージの策定方法について説明
- ③グループワークによる意見交換
・これまで出されてきた具体的な意見がグループワークでまとめることによって、抽象的な言葉で集約され

てしまう。これまでのプロセスが見えなくなってしまうのではないか。
→これまでの意見の積み重ねを基にまとめられたもの。全体像が一目でわかる資料も必要。不足している部分の意見を出していただきたい。
⇒あくまでもたたき台である。今回の意見交換で幅広く意見を寄せていただきたい。

【グループワークまとめ】

[Aグループ]

- ・「農業・工業・商業の横のつながりで活動できる学校」「長野県にここにしかない全国から生徒が来るような学校」「男女が同じ比率になるような学科構成の学校」「クラブ活動で特色化を図る学校」「資格を取って活躍できる学校」というように、今までの専門高校と発想を変えて新たな切り口で考えていきたい。
- ・生徒が学びたいと思う授業を中心に、選択肢が多いカリキュラムを構築してほしい。
- ・小中学校にもっとPRして、小中学生に総合技術高校の魅力を広めていかなければならない。
- ・専攻科の設置により、専門性を高め、安曇野地域の研究機関という役割も担ってほしい。特に社会人講師による授業を行うことによって、さらに専門性を深めることができるのではないかな。また、高い専門性を持つ教員を育ててほしい。

[Bグループ]

- ・穂高商業では、大王わさび農場や松本山雅、エプソンの方々や地域の人たちと関わり合いながら学習を進めている。この他にケースメソッドの授業をとおして、コミュニケーション能力などを高めている。
- ・池田工業では、コミュニケーション能力という観点で言えば、デュアルシステムによる企業実習をとおして、気配りやマナーを学ぶことができている。
- ・今年度も3校で融合した生徒会の取組について、新しい企画を考えていきたい。
- ・生徒が選択できる学びの幅がもっと広がるとよい。お互いの学科の分野が役に立つ学習があるので、他学科の授業を受けられる選択肢があっても良いのではないかな。
- ・学科によってそれぞれ目指す学科像が違ってよい。

[Cグループ]

- ・「学校、地域、生徒が成長できる」という表現を学びのイメージに入れてはどうか。
- ・地元企業や農家と地域の課題や問題を探り、地域と連携することが重要となる。
- ・いろいろな課題に立ち向かっていく素直でやる気のある生徒を育てていくことも大切。
- ・安曇野を学ぶ機会を設け、地域の課題を高校で解決できなかったとしても、さらに進学し、最終的に地域に戻って解決に取り組んでもらえる生徒を育てる学校像はどうか。
- ・学校の設備は古いが、ドローンなどの先端技術の学びをどのように取り入れていくのかを考えたい。最先端の設備がなければ、企業の設備を使う方法もある。

[Dグループ]

- ・「育てたい生徒像」「目指す学校像」にある「専門性の高い生徒」と「多面的な職業能力を持つ生徒」は相反する言葉ではないか。また、3年間という時間で両方の取組を行うのは難しいのではないかな。
- ・塩尻のような総合学科高校ではなく、安曇野の新校は総合技術高校ということが重要である。それぞれの学科の専門性を学んだ上で、地域課題にどう取り組んでいくかという段階で、他学科の力を借りるなどの関わりができるかと考える。
- ・地域に根ざした学校として、地域の資源を活用し、地域の企業と協力しながら生徒を育て、地域に生徒を還元していく学校を目指してはどうか。

[Eグループ]

- ・「学びのイメージ」の「安曇野」という言葉を違う地域名に置き換えても通用してしまうので、安曇野総合技術新校ならではの学びを考える必要がある。例えば、安曇野には高等教育機関がないので、専攻科に限らず、研究等の拠点校のようなものがあったら良いのではないかな。
- ・「専門性を高めること」と「多面的な学び」は相反するような言葉だが、この点については各学科の課題研究で融合できるのではないかな。
- ・中学校では「キャリアフェスティバル」という地域の魅力に触れて「こういう人間になりたい」と生徒が思えるような取組を始めた。高校のみで完結する探究活動だけではなくて、小中高との連携、学びの繋がりといいものも考えた仕組みを考えていくべきではないかな。
- ・特別支援教育に関する機能等を充実させた学校であってほしい。
- ・今後、「デジタル」がキーワードとなっていくと予想すると、どのように農工商と繋がっていくのかを考えて、前面に押し出していくと良い。

○連絡事項

- ・池田工業高校同窓会からシンポジウム開催の案内（6月1日、甲府工業高校専攻科の教員による講演）

その他

【次回懇話会】

- ・日時 令和7年7月頃（予定）
- ・会場（調整中）
- ・内容 全国の先進事例の講演、新校の学びのイメージに係る意見交換

令和7年7月23日

第7回安曇野懇話会 配付資料(リンク集)

福井県立坂井高等学校
校長 清水一広

福井県立坂井高等学校 ホームページ・公式Instagram
「坂井高校発見の旅」(`等身大、の坂井高パンフ 生徒会と図書委制作)



ホームページ



Instagram



発見の旅

Yahoo!ニュース特集記事

2024/2/16(金) 掲載

【マイスター・ハイスクール】

8コースが連携、生徒を「迷わせる」改革とは？



日本教育公務員弘済会

「きょうこう」2024年7月発行

Vol.48 20ページ

「わたしたちの学校自慢」



実教出版 工業教育資料
411号 2024/1/15 発行



文部科学省Instagram
(専門高校アカウント)



文部科学省 工業科【実践的・体験的な学習の実践事例集】

11 「生徒がつながる」協働的な探究の学びが生徒の主体性を育む

(福井県立坂井高等学校) (PDF:306KB)

